

あつし塾長の

子のやる気の親の気づき

〇〇23



第2章・ゆとり教育世代の子育て

小学生のお父さまとの学習相談で、「息子が突然、学校に行けなくなりました。理由はすぐには分からなかったのですが、どうも下足に泥を入られたようです。初めは何クソと耐えていたようですが、数日たって犯人が分かってしまったと。

競争

それが親友だったのでショックだったようで、「...と話されました。学校に行けない理由が親にも分かってきたころ、担任の女性教諭から自宅に電話が入ったそうです。「〇〇君は今日もお休みですが風邪でしょうか?」と。お父さまは、初めのうちは理由を濁していたようですが、何度も「風邪ですよ」と念を押されたので、「理由はいじめです」

集団内が頑張りの場に

つらさを乗り越え自我育つ



by Yoriko

と伝えたそうです。ところが、相手の反応があまりに的を射ていないので、普段から気になっていた学級運営について「児童会には児童会長があるのに、学級会に『長』が存在しないのは子どもたちの代表がいらないということでは?」と話題を変え尋ねてみたそうです。すると担任の先生は「学校の代表は校長、クラスの代表は私です」ときっぱり答えました。お父さまは違和感を覚え、これ以上の対話は難しい

と失望したそうです。そして私に、「ゆとり教育になって、運動会でも順位をつけられないのかもしれない。競争がダメなんじゃないか、一人の役割を比べ認め合うことで、社会はエネルギーを生むんじゃないですか」とおっしゃいました。子どもが多いから頑張れることが多いはずですが、子どもたちは友達の表情やしぐさを自分と比べ、一緒にしっかり役割をこなして、その役割がふに落ちて、自分らしさは自信に変わっていきます。自我とは友達とつらさを失敗を乗り越

える中で生まれ、たくましく育つものではないでしょうか。いつまでも親が子に寄り添うのではなく、遠くで見守り、意思の疎通がうまくいかないと感じたり悩んだりすることがコミュニケーションの最も優れた訓練だと肝に銘じ、子どもの世界にほっておくことが大切なのではないでしょうか。子育てはいつも正念場です。(畑山篤志学塾塾長)

傷ついた成長に客

定時制記録映



教育

ニュースなぜなに

て1948年、国際捕鯨委員会(IWC)をつくりました。IWCは、どんなクジラが、どこに、どれだけいるかを調査。その結果を基に、捕ってもよいクジラの数などを規制してきました。ところが、環境を守る

南極海の調査捕鯨で船に運ばれたクジラ(日本鯨類研究所提供)

